

新中央図書館整備基本計画
概要版

平成31年3月

ひたちなか市

目次

はじめに.....	1
1. 計画策定にあたって.....	1
1-1 中央図書館の概要	1
1-2 平成 29 年度調査報告書における整備理念と基本方針	1
2. 市民ニーズの調査結果.....	2
2-1 市民アンケート調査	2
2-2 高校生等アンケート調査	2
2-3 聞き取り調査	3
2-4 市民ワークショップ	4
3. 新中央図書館のサービス計画.....	5
3-1 まなび：現在及び将来の市民一人ひとりの読書・学習を支援	5
3-2 みのり：日々の疑問の解決から生涯を通じた主体的な取り組みへ.....	5
3-3 あそび：知的好奇心を刺激し，子どものアソビをマナビに	6
3-4 未来へ：地域の「想い」「夢」を実現するまちづくり・ひとづくりに貢献	7
4. 新中央図書館の施設計画.....	7
4-1 必要諸室と整備方針	7
4-2 施設の規模	8
5. 新中央図書館の管理運営方針.....	10
5-1 開館日・開館時間	10
5-2 管理運営手法	10
6. 新中央図書館の整備候補地.....	10

はじめに

本市の図書館サービスは、中央図書館を含む3館1分室体制で提供しています。中心的役割を担う中央図書館は昭和49年5月に開館しており、老朽化・狭あい化が進行し、より一層多様化・高度化する市民のニーズに応えることが難しくなっています。

そこで、本市では平成28年度から新中央図書館整備検討委員会を通じて中央図書館の建替えを総合的に調査、研究及び検討し、平成29年度には「中央図書館整備調査報告書」（以下、「調査報告書」とします。）をとりまとめました。「新中央図書館整備基本計画」は、調査報告書の内容や平成30年度に実施した市民ニーズの調査結果を踏まえ、新中央図書館におけるサービスや施設のあり方をさらに具体化するために策定するものです。

1. 計画策定にあたって

1-1 中央図書館の概要

中央図書館は、勝田駅から徒歩約5分の中心市街地内にあり、幅広い市民に利用されています。また、市内全域へのサービス展開や、他館や分室への連絡調整を担当しています。現在の利用は、資料の貸出・返却が中心ですが、レファレンスサービスの利用も増えてきています。



表 中央図書館の概要

項目	内容	項目	内容
開館年月日	昭和49年5月19日	蔵書点数	244,701点 (H29年度値)
所在地	元町5番3号	貸出点数	413,174点 (H29年度値)
延床面積	1,868.14 m ²	貸出者数	89,639人 (H29年度値)
		レファレンス件数	4,681件 (H29年度値)

1-2 平成29年度調査報告書における整備理念と基本方針

中央図書館の現状や公共図書館に求められる役割などを踏まえ、新中央図書館の整備理念と4つの整備方針を設定しました。（右図参照）。

これらを踏まえ、新中央図書館では、市民の学習意欲に応えるための機能の充実を図り、次世代のまちづくりへとつなげていくことを目指すものとします。

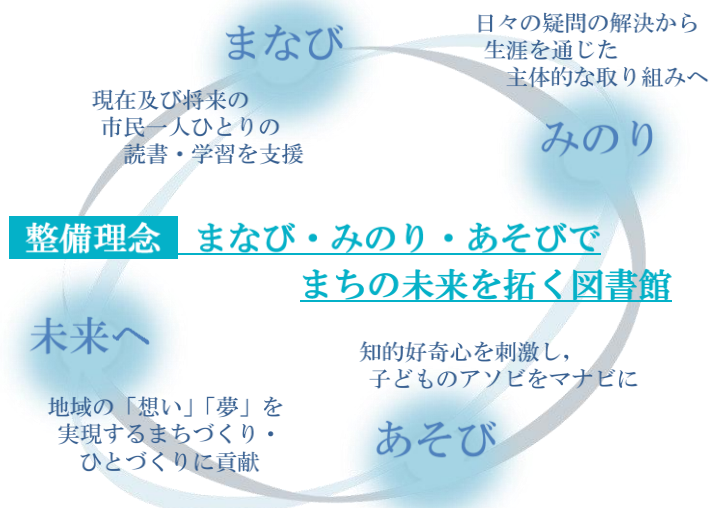


図 新中央図書館の整備理念・整備方針

2. 市民ニーズの調査結果

2-1 市民アンケート調査

(1) 調査概要

現在の市立図書館の利用状況や新中央図書館に対する市民の意向を把握するため、無作為抽出した18歳以上の市民2,000名を対象に郵送配布・郵送回収にて調査を実施し、803票の回答が得られました。

(2) 現在の市立図書館の利用状況

回答者の約半数が過去1年以内に市立図書館を利用しています。資料の貸出・返却目的の利用や短時間利用が多く、利用の際の主な交通手段は「自家用車」が約75%を占めています。

(3) 新中央図書館に望むこと

新中央図書館に対しては、ゆとりある読書空間の整備や、充実した読書・学習環境の整備が求められています。

さらに、若年層では友人同士での利用やインターネット接続が可能な環境へのニーズが見られるほか、子育て層では子ども連れで利用しやすい環境へのニーズも見られます。

休館日は現在のままで良いとする意見が最多ですが、10歳代などでは土・日・祝日の閉館時間の延長へのニーズが見られます。

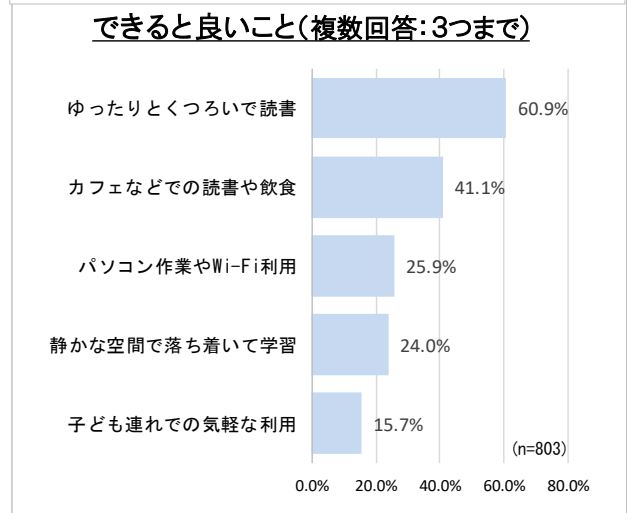
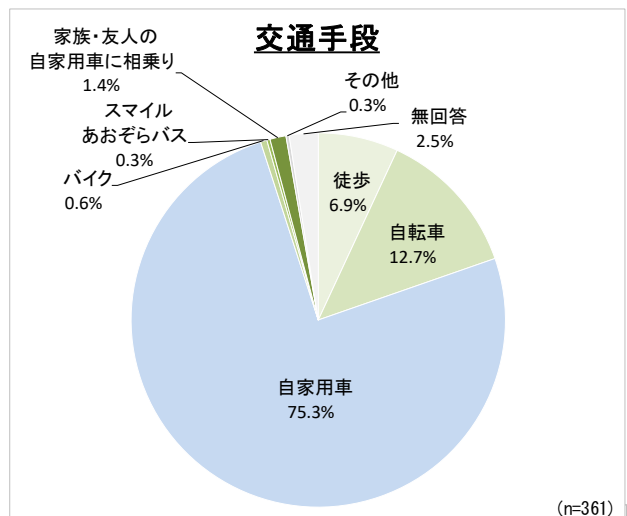
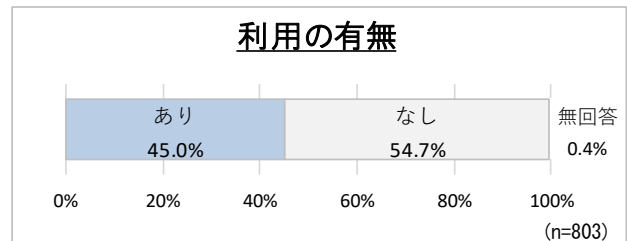


図 市民アンケート調査結果(抜粋)

2-2 高校生等アンケート調査

(1) 調査概要

市内の高等学校・高等専門学校に通学する生徒を対象に、現在の市立図書館の利用状況や新中央図書館に対する意向を把握するためアンケート調査を実施し、199票の回答が得られました。

(2) 現在の市立図書館の利用状況

高校生等の市立図書館利用率は約 30% で、本や雑誌は自分で買うためや読書をしなため、学校図書館を利用するために利用しないとする回答が多く見られます。

(3) 新中央図書館に望むこと

市民アンケート調査結果と比較して、インターネット接続や友人同士での利用ができる環境の整備へのニーズがより高くなっています。

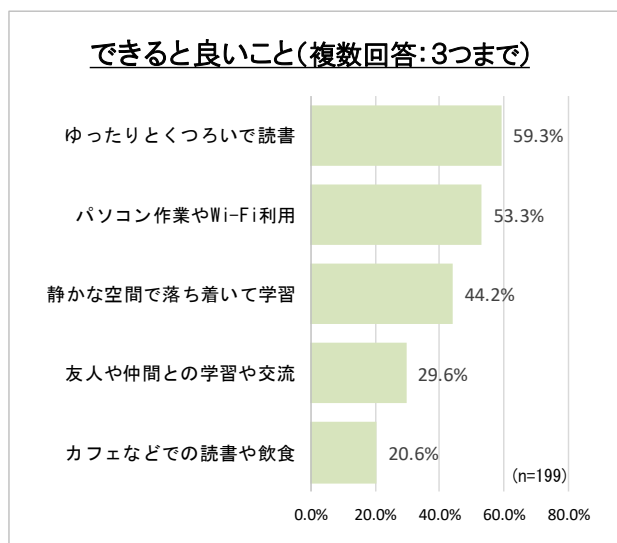


図 高校生等アンケート調査結果(抜粋)

2-3 聞き取り調査

中高生や子育て世代を対象とする聞き取り調査からは、個人や友人同士、親子連れなどでの気兼ねない利用や滞在ができる環境へのニーズが見られました(下表参照)。

表 聞き取り調査結果

項目	中高生調査結果	子育て世代調査結果
読書習慣	<ul style="list-style-type: none"> 読書量や頻度は高校生で低下 書店や学校図書館を利用する傾向 	<ul style="list-style-type: none"> 読書習慣があるのは7割以上 不読理由は時間確保の難しさ
図書館利用状況	<ul style="list-style-type: none"> 不定期利用が中心(長期休暇時/保護者同伴時など) 中央図書館の書架や閲覧室、ロビーなどは利用しづらいとの認識 	<ul style="list-style-type: none"> 定期利用が中心(資料利用時/おはなし会参加時) 一部は親子連れでの利用を躊躇
新中央図書館に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ポップカルチャー関連資料・行事 セルフ貸出 中高生専用の空間 飲食・休憩可能な空間 個人・複数人用の学習席・室 館内視聴・Wi-Fi 利用環境 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本やおもちゃの貸出 セルフ貸出 親子対象のイベント 託児 親子で過ごせる空間 飲食可能な空間 子ども用トイレ・授乳室 など
中央図書館の移転先	<ul style="list-style-type: none"> アクセス性を重視 	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場の利便性や公園との隣接などを重視

2-4 市民ワークショップ

新中央図書館に望む機能などについて市民の意向を把握するため、公募市民の参加により『新中央図書館を考える市民ワークショップ』を開催しました。

第1回では、最近の図書館について学んだあと、現在の中央図書館の課題についてグループワークを行ったところ、蔵書の量や種類の充実、施設の利便性や雰囲気の改善などの意見がありました。

第2回では、想定する利用者像などを協議した結果、多様な利用者に対応した読書・学習環境の整備のほか、会話や交流、滞在のための環境の整備などへのニーズが見られました（下表参照）。



表 市民ワークショップ結果(第1回)

現在の中央図書館に関する主な意見(第1回)		
資料面	良い点	児童書など一部資料の量・種類／資料の探しやすさ
	改善が必要な点	資料の量・種類・鮮度／資料の探しづらさ
サービス面	良い点	職員の対応／資料予約方法
	改善が必要な点	貸出期間／対象別サービス／情報発信方法 開館時間帯・日数／市民参画方法
施設・設備面	良い点	閲覧環境／一般開架室と児童開架室の配置／桜の木 駐車場規模／立地
	改善が必要な点	規模／書架間隔／座席数／雰囲気／利用のしづらさ 一般開架室と児童開架室の配置／飲食・休憩環境 ユニバーサルデザイン対応／外観

表 市民ワークショップ結果(第2回)

新中央図書館でできるとよいことに関する主な意見(第2回)	
利用者全般	良好かつ利便性の高い環境での資料の閲覧 自身の抱える課題の解決／定期的な行事などへの参加／滞在・交流
子ども・親子連れ	気兼ねない利用／行事への参加／親子や保護者同士での会話・交流
中高生・学生	中高生向け資料の閲覧／多様な方法・形態での学習
高齢者	読書以外の目的での気軽な利用・交流／健康づくり
その他	身体的・心理的負担や時間的制約のある市民の利用の支援 本市の歴史・文化に触れられる場や機会の提供

3. 新中央図書館のサービス計画

「調査報告書」で掲げた整備方針及びサービス方針と「2 市民ニーズの調査結果」を踏まえ、新中央図書館で展開するサービスとメニュー例を以下のように考えます。



3-1 まなび：現在及び将来の市民一人ひとりの読書・学習を支援

(1) 中央館として相応しい質・量の資料の提供	
1) 十分な量かつ新鮮で魅力的な資料の提供	① 中央館としての約 50 万冊（うち開架約 25 万冊）の <u>豊富で幅広い資料の提供</u>
	② 鮮度の高い資料や時代・ニーズの変化に <u>対応した資料の提供</u>
2) 豊富な資料との多様な接点の提供	① タイムリーな展示などを通じた <u>読書の幅を広げるきっかけの提供</u>
	② 予約対象や利用者カード形態の検討を含む <u>利便性の高い利用条件・方法の設定</u>
(2) すべての利用者にとって快適な読書・学習環境の提供	
1) 利用目的に応じた環境の提供	① 多様な閲覧席やコーナーなどの <u>個人での利用に適した環境の提供</u>
	② グループ学習室などの <u>複数人での利用に適した環境などの提供</u>
2) 誰もが快適で親しみやすい環境の提供	① 安全で利用しやすい <u>ユニバーサルデザインに配慮した環境の提供</u>
	② 気分転換や待ち合わせなどでも <u>気軽に立ち寄りやすい環境の提供</u>
(3) ICTの活用による利便性の向上	
1) 職員を介さず利用可能な環境の提供	利用者自身で貸出処理などが可能な環境の提供
2) 必要な情報の入手が可能な環境の提供	ホームページや電子掲示板を通じた情報の入手が可能な環境の提供

3-2 みのもり：日々の疑問の解決から生涯を通じた主体的な取り組みへ


(1) 充実したレファレンスサービスの提供	
1) 職員による専門的な調査・研究の支援	① レファレンス専用カウンターでの <u>職員による直接的な支援の提供</u>
	② レファレンス事例の提供などを通じた <u>適切な情報へのアクセス手段の提供</u>
2) 市民生活に役立つ資料・情報の提供	就職や起業、育児、健康づくりなどに関する資料・情報提供

(2) ライフステージや年代に応じたサービスの展開


1) 生涯にわたる継続した読書・学習の支援	① 資料提供やコーナーの設置などを通じた <u>子どもの読書・学習習慣の形成の支援</u>	
	② 講座の開催などを通じた <u>大人の日常的な学習の支援</u>	
	③ 仲間づくりの機会の提供などを通じた <u>高齢者の生きがいづくりの支援</u>	
2) 利用が困難な市民の読書・学習の支援	対面朗読などの館内サービスや宅配サービスの提供	

3-3 あそび：知的好奇心を刺激し、子どものアソビをマナビに


(1) 関連機関と連携した読書活動の支援

1) 未就学児に向けた連携と支援	① 図書館オリエンテーションなどでの「 <u>ふぁみりこらぼ</u> 」など <u>公共施設との連携</u>	
	② おはなし会の開催などでの <u>幼稚園・保育所（園）との連携</u>	
2) 小中学生に向けた連携と支援	調べ学習用資料の提供や図書館を知る機会の提供	

(2) 就学期以降の子どもの本や読書との触れ合いの支援

1) 毎日でも利用したくなる環境の提供	① 大人に気兼ねすることなく <u>伸び伸びと本に触れられる環境の提供</u>	
	② 自然を観察したり知育ゲームをしたり <u>自由に遊ぶことのできる環境の提供</u>	
2) 様々な気づきを体感できる機会の提供	参加・体験型のイベントの開催	

(3) 中高生の利用や学習の支援

1) 身近で居心地の良い環境の提供	① グループ学習室の利用やイベントの参加などを通じた <u>同じ時間を共有できる環境の提供</u>	
	② 個人学習室などの <u>思い思いに過ごすことのできる環境の提供</u>	
2) 自主的な活動が可能な環境の提供	交流や学習成果の発表の場・機会の提供	

3-4 未来へ：地域の「想い」「夢」を実現するまちづくり・ひとづくりに貢献

(1) ひたちなか市らしい資料・情報の提供	
1) 地域の歴史や文化の継承	① 市内他館とも連携した <u>郷土・行政資料の積極的な収集・発信</u>
	② 市民との協働による <u>郷土の魅力に触れる機会の提供</u>
2) 市内外に向けた観光資源の発信	本市の観光スポットや名産品、イベントに関する情報の収集・提供
(2) 暮らしやすいまち、豊かな暮らしの実現の支援	
1) ビジネス支援や健康づくり支援	① 講座の開催などを通じた <u>ビジネス・仕事に関する支援</u>
	② 健康測定機器の設置などを通じた <u>心身両面の健康づくりに関する支援</u>
2) 子育てや市民活動の支援	① 交流の場の提供などを通じた <u>子育て世代への支援</u>
	② 市民活動を学ぶ機会の提供などを通じた <u>市民の自立と協働への支援</u>
(3) 市民の居場所づくりと交流・賑わいの創出	
1) 市民が集う場や機会の提供	① 本に関するイベントなどを介した <u>利用者間での交流の創出</u>
	② 周辺公共施設とのイベント共催などを通じた <u>地域の賑わいの創出</u>
2) ボランティア活動の場と機会の提供	幅広い世代のボランティア（サポーター）との協働

4. 新中央図書館の施設計画

4-1 必要諸室と整備方針

新中央図書館では以下の基本的考え方に基づき施設整備を進めるものとします。また、「3 新中央図書館のサービス計画」を踏まえ、新中央図書館で想定する諸室とその用途などを次頁表のとおりとします。

新中央図書館全体に共通する施設整備の基本的考え方

- 市民にとっての立ち寄りやすさや利用のしやすさ、分かりやすさ、快適性などに配慮
- 将来的な市民ニーズや情報技術の変化にも対応できる空間構成

<具体的な配慮事項>

フロア構成、ゾーニング、施設としての一体感、ユニバーサルデザイン、建築材など

表 新中央図書館の必要諸室

区分	部門	ゾーン	室名	用途・機能
利用者	導入	エントランス・交流		行事関連情報の発信 / 会話・交流 / 飲食
	児童開架	児童開架スペース		親子の本との触れ合い・読み聞かせ / 子どもの読書・学習
		児童カウンター		子どもの利用者への対応
		おはなしの部屋		おはなし会などの開催 / 親子での読み聞かせ
		その他		子ども用トイレ、授乳室など
	開架	一般開架スペース		中高生～大人の読書・学習・調べもの / 滞在
		サービスカウンター		中高生～大人の利用者への対応
		レファレンスカウンター		調べものの相談やリクエストへの対応
		新聞・雑誌コーナー		当日の新聞や最新号の雑誌、バックナンバーの閲覧
		ティーンズコーナー		中高生の個人や友人同士での読書・学習
		インターネット・AVコーナー		個人や複数人でのインターネットやデータベースの閲覧
		対面朗読室		対面朗読 / 録音資料作成
		参考図書コーナー		辞書や事典等を用いた調査研究
		地域・観光コーナー		郷土・行政資料やパンフレットの閲覧
		健康コーナー		健康資料の閲覧 / 健康状況の把握
	集会・学習	個人学習室		個人の研究・学習
グループ学習室		友人同士などでの所蔵資料による学習		
多目的室		大人数でのイベント・映画会の開催		
会議室		講座・イベントの開催		
管理	事務・管理		事務作業室、会議室、ボランティア室など	
	保存		収蔵冊数約 25 万冊程度の閉架書庫	

4-2 施設の規模

「調査報告書」では、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準活用の手引き [平成 24 年文部科学省告示第 172 号]」及び他自治体中央館整備水準等を踏まえて新中央図書館の蔵書規模を設定しました。その結果、新中央図書館で想定する収蔵冊数は約 50 万冊、開架・閉架比率は開架約 50%：閉架約 50%、一般書・児童書比率は一般書約 65%：児童書約 35%となりました。

上記及び「4-1 必要諸室と整備方針」を踏まえ、新中央図書館の延床面積は、次頁表のとおり約 5,500 m²を基本とします。諸室の相関関係は次頁の機能相関図に示します。

表 新中央図書館の規模

区分	ゾーン	面積
利用者	エントランス・交流	170 m ²
	児童開架	870 m ²
	一般開架	2,065 m ²
	集会・学習	520 m ²
管理	事務・管理	320 m ²
	保存(閉架書庫)	500 m ²
共用(階段・廊下・トイレ等)		総面積の 20%
合計		≒ 5,500 m ²

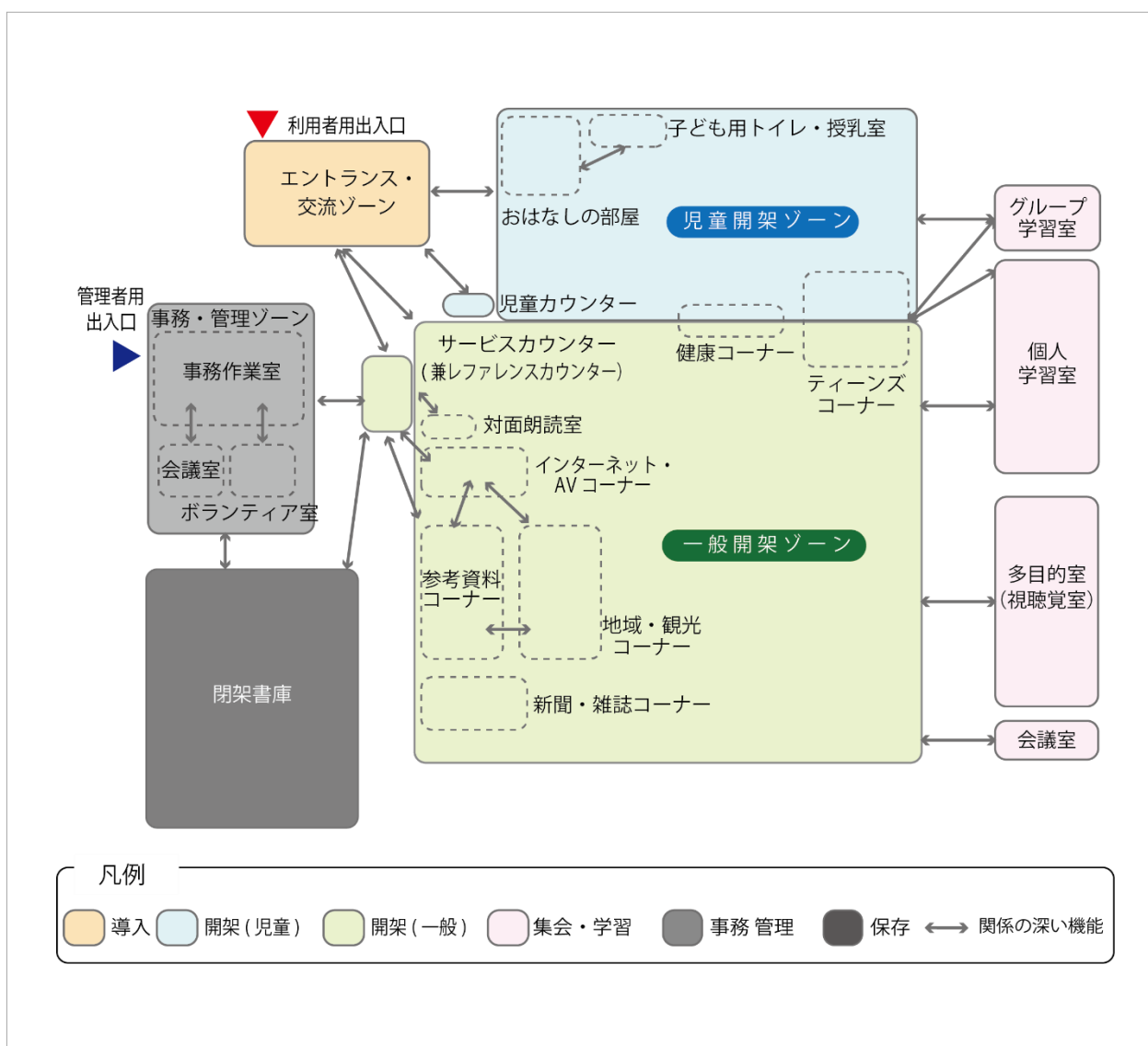


図 機能相関図

5. 新中央図書館の管理運営方針

5-1 開館日・開館時間

開館日・開館時間は、市民アンケート調査結果や他市町村の状況、整備地周辺の状況などを踏まえて今後検討していきます。

5-2 管理運営手法

これまで本市では、関係機関との連携や職員の専門性、社会教育施設としての公的役割などの理由により、直営で管理運営を行ってきました。今後十分に検討する必要がありますが、基本的には直営で行うものとします。また、ボランティア（サポーター）やICTの積極的な活用を進めます。

6. 新中央図書館の整備候補地

「調査報告書」では、以下に示す4か所の候補地を設定し、想定する建物規模（約5,500㎡）及び駐車場規模（110台）を踏まえて、各候補地における整備イメージについて検討しました。

候補地

- 候補地1-A：現況敷地
- 候補地1-B：市営元町駐車場敷地
- 候補地2：旧青少年センター・旧生涯学習センター・市営勝田中央駐車場等敷地
- 候補地3：東石川第四公園グランド敷地

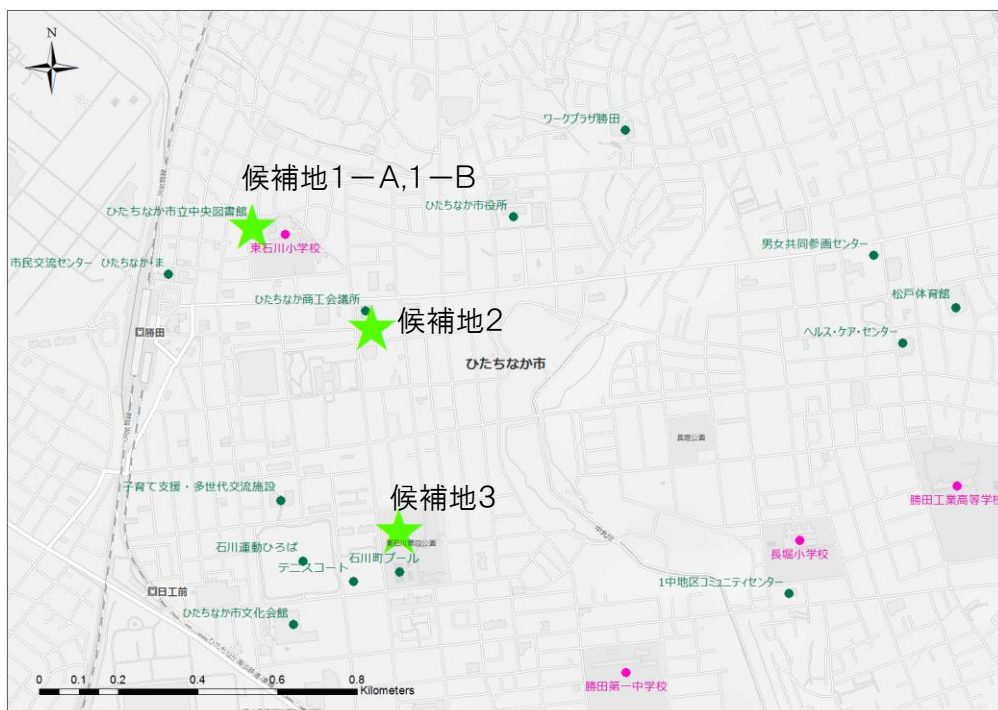


図 候補地

比較検討のまとめ

各候補地の敷地の広さや余裕度，アクセス性や利便性，都市機能等の集積度等を比較検討しました。その結果は以下のとおりです。

候補地 1－A（現況敷地）は，勝田駅に近く駅からのアクセス性は良いものの，敷地面積が狭く目標とする施設規模を整備できないことがわかっています。また，現中央図書館を取り壊してから新中央図書館の建設に着手することとなるため，現有図書等の移動や保管場所の確保が必要になること，休館の期間が長期にわたることが想定されます。さらに，図書館利用者の増加が見込まれるため，市営元町駐車場が駅前の主要道路に面していることから，交通渋滞や安全性の面が懸念されることなどの課題があります。

候補地 1－B（市営元町駐車場敷地）も，勝田駅に近く，駅前の主要道路に面したわかりやすい場所となりますが，現中央図書館の場所に立体駐車場の整備が必要になること，駐車場の出入口に面した道路が狭く交通渋滞や安全性の面が懸念されること，新中央図書館建設中に現中央図書館利用者のための駐車場を確保する必要があることなどの課題があります。

候補地 2（旧青少年センター・旧生涯学習センター・市営勝田中央駐車場等敷地）は，勝田駅からの距離が現中央図書館と大きく変わらないアクセス性の良い場所で，昭和通りに面した分かりやすい場所への立地となります。また，現中央図書館を開館しながら整備できるため，建替えのために長期に休館する必要がないほか，隣接する商工会議所や近接するひたちなか総合病院と連携したサービスを提供することなども想定できます。課題としては，商工会議所利用者などの駐車場を確保するには立体駐車場の整備が必要となることや，立体駐車場を整備した場合，ひたちなか祭りの本部運営などイベントでの活用が困難になることや景観上の問題などが挙げられます。

候補地 3（東石川第四公園グランド敷地）は，敷地面積が広く，低層の建物で目標とする施設規模を整備することが可能であり，駐車場も平面駐車場で必要台数を確保することができます。また，現中央図書館を開館しながら整備できるため，建替えのために長期に休館する必要がないほか，緑に囲まれた静かな環境の中での立地となり，第四公園のベンチや遊具等を活用した利用や，近接する子育て支援・多世代交流施設「ふぁみりこらぼ」と連携したサービスを提供することも可能となります。課題としては，野球やグラウンド・ゴルフ等の利用者に影響が生じることや，勝田駅から少し離れた場所となり幹線道路にも面していないため，分かりにくい場所への立地となることなどが挙げられます。

整備地については，魅力的な図書館の建設にきわめて重要な要素であることから，敷地の広さや余裕度，アクセス性や利便性，都市機能等の集積度に加え，中心市街地における回遊性や賑わいの創出，整備に係るコストなど，まちづくりの観点から引き続き総合的に選定を進めていくものとします。複合施設の可能性も視野に入れながら，上記候補地以外にも新中央図書館の整備地としてふさわしい敷地があれば加えて検討するなど，あらゆる可能性を踏まえた検討を引き続き行ってまいります。

